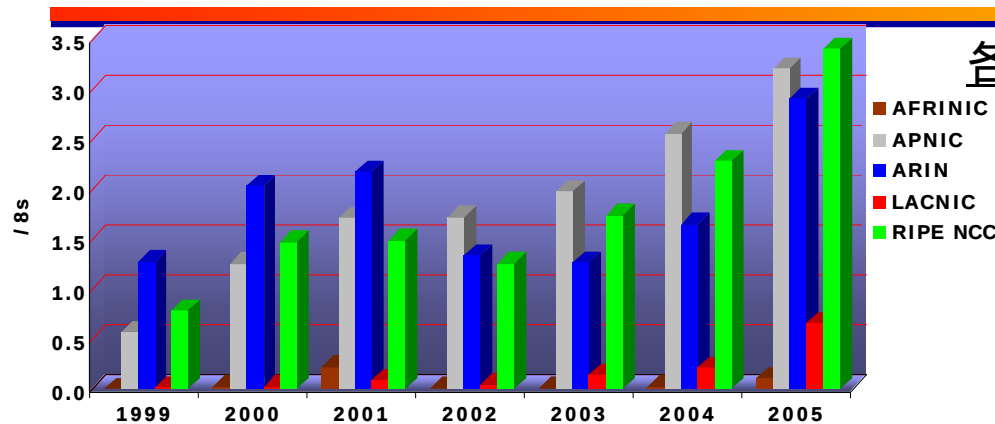


IPv4アドレス枯渇を 乗り越えるために

パネルコーディネータ: 前村 昌紀
maem@maem.org

そんなに早く枯渇しますか？



各RIRの年間割り振り総量の推移

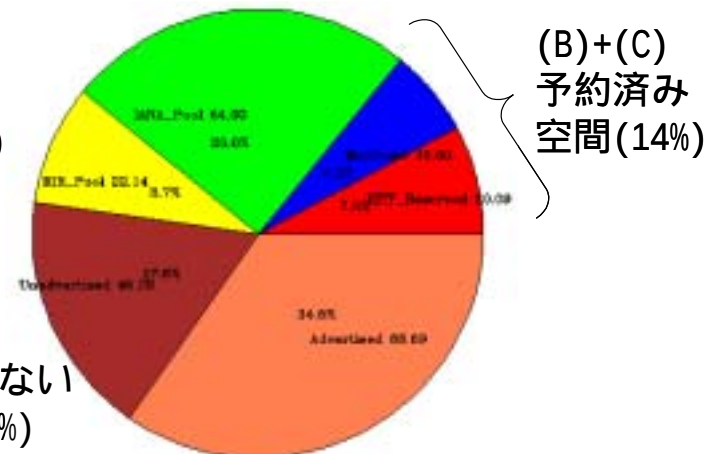
年間 /8 * 10, 増加傾向

全IPv4アドレスの中の消費状況 (H)RIRプール(9%)

(J)RIR配下に割り当て済み且つ広報されていない (18%)

未割り当て: /8 * 87
割当済未利用: /8 * 46

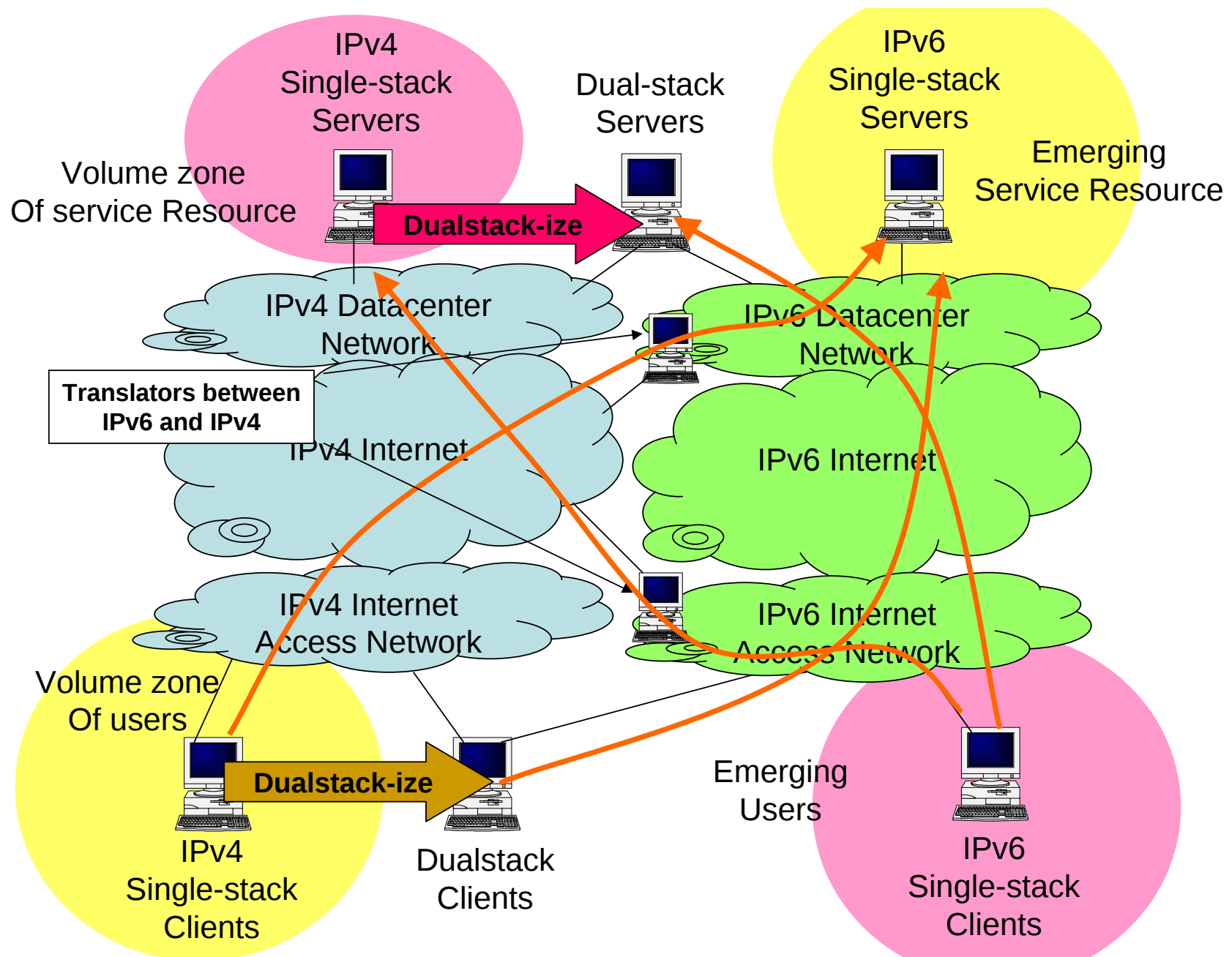
(F)IANAプール(25%)



(I) RIR配下に割り当て済み且つ広報されている (34%)

IPv4アドレス枯渇後の問題

- IPv4アドレス枯渇に向けた提言
 - <http://www.nic.ad.jp/ja/research/ipv4exhaustion/>
 - 新たなインターネット利用者(クライアント側)は、IPv6インターネットしか利用できず、情報や各種サービスが充実しているIPv4シングルスタックサーバへのアクセスができない。利用者にとってのインターネットの利便はサーバ上で実現されているので、このままでは新たなインターネット利用者はインターネットの利便を享受できない。言い換えると、利便がないインターネットに接続する利用者は発生しない。
 - 新たなサービス事業者(サーバ側)もIPv6インターネットしか利用できず、ボリュームゾーンを構成するIPv4シングルスタックの利用者に対するサービスの提供ができない。このままでは事業意義を見出せないことになるので、事業展開されない。



ネットワーク事業者は

- サーバに対するアクセス, クライアントに対するアクセスに対して、
- 現在のIPv4シングルスタックのサービスを
- 大差のない価格で
- IPv6とのデュアルスタックで提供する必要がある

パネリストのご紹介

- 友近 剛史さん
 - NTTコミュニケーションズ
- 阿部 健二さん
 - KDDI
- 松崎 吉伸さん
 - インターネットイニシアティブ
- 印南 鉄也さん
 - ソフトバンクBB